

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 3月 30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491900050		
法人名	社会福祉法人 三次市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームみらさか		
所在地	広島県三次市三良坂町灰塚37-12 (電話) 0824-44-3738		
自己評価作成日	令和2年2月22日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3491900050-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3491900050-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町1番8号 ホスタ海田堀川町ビル1階
訪問調査日	令和 2年 3月 30日 (月)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域交流行事として、地域に出向き月に1度「よりんさい」を主催している。演劇鑑賞から認知症講座まで、さまざまな情報を地域に提供している。毎回カフェタイムを設け、情報交換や入居者の方と地元住民とのコミュニケーション作りなど行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームみらさかは、緑豊かな静かな住宅地に立地し、2ユニット18名のグループホームを運営している。地域コミュニティの施設が事業所前にあり、ゆったりとした時間が流れている。散歩・外食・地域行事への参加・ボランティアの受け入れ・施設行事への地域住民の来訪等で地域と交流している。管理者やリーダーは、全職員で作成された事業所の理念を基に、利用者一人ひとりがその人らしい生き方を見つけ、ゆっくり・のんびりと過ごせるよう、理念の実践につなげている。食事は、3食とも手作りでご飯も事業所で炊き、利用者は野菜の下ごしらえや盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭き等出来る事を職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで、会話を楽しみながら食事を楽しんでいる。月1回のミーティング時や申し送り時だけでなく、日常業務の中でも職員から意見や提案を聞く機会を設けている。利用者との日常の関りの中での、職員の気付きやアイデアを取り入れて、利用者の笑顔につながる支援や利用者の暮らしやすい環境作り、職員の働きやすい環境作りに反映している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・地域の中の1家庭して、常会にも加入し地域の行事、催しに積極的に参加する。 ・ユニット職員全員で理念を考え、業務着任時に確認できるように掲示し、理念の徹底を図っている。	理念「ひとりひとりが能力を引き出し、みんなが個性を発揮しその人らしい生活が送れるよう。第2の家庭としてご自宅と同様の環境を整え他のお仲間と一緒に暮らせる。暖かい安らぎの場づくりと生活の質の向上を目指す。」を掲げ毎日職員が朝礼時に唱和している。又、ユニット毎に理念(笑顔でくつろぐもみじ・我が家のようなさくら)を掲げて、日々実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・地域常会に加入することで行事や集いに参加している、又地元小中学校、保育所、とも交流がある。 ・地元通信に苑だよりを掲載し、状況報告をする。 ・ボランティアの受け入れ(演芸・会話)	地域ボランティアによるギターアンサンブル・バイオリン・チェロ演奏会やバンブーダンス・手品等の披露や、三良坂保育所の音楽鑑賞に出かけたり、小学5年生が来苑して交流をしている。又、みらさか学園運動会を見学に出かけている。三良坂美術館へ鑑賞・三良坂健康福祉祭りのぞみヶ丘文化祭に作品展示と見学・開村式見学・秋祭りに神輿が来ている。お寺の花祭りに参加している。「よりんさい」を毎月1回開催し、老人会とミニ運動会をして地域と交流している。	地域との交流を盛んにしておられますが、社会福祉協議会事業所として、現状はまだ不十分と感じている部分もあり、今後もう少し交流を持てる場を増やされる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・トレーニングルーム併設にあたり独自事業の実施 ・地域行事に入所者と積極的に参加している。 ・地元通信にスペースをいただき活動報告や認知症を理解していただくための啓発活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・職員、行政、家族、常会役員、地元有識者の構成により定期的に行っています。さまざまな議題について意見交換を行い、サービス向上に向け取り組んでいる。	会議は2ヶ月に1回開催し、高齢者福祉課長・のぞみが丘運営協議会会長・民生委員・家族・社協課長・苑長・管理者等参加し、利用者の生活状況、行事予定、行事報告、職員状況、入居・退居者報告、ヒヤリハット・事故報告書とその対策、感染症、防災訓練等について説明し、意見交換し運営に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・市役所支所・包括支援センター等へのパンフレット配布。 ・市と法人との連絡会において、入居状況等報告し、必要な連絡調整を行っている。	市の担当者とは、書類更新時等に直接出向いたり、電話やメールで相談、情報交換を行い協力関係を築いている。又、運営推進会議に高齢者福祉課長が出席しており、情報交換している。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議や地域ケア会議参加時に困難事例の相談や情報交換をしている等、連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束適正化検討委員会開催、ユニット会議、講習等で伝達、学習し意識の徹底に努める。 ・夜間以外の施錠の禁止、身体拘束の禁止は職員間でも徹底している。	職員は、2ヶ月に1回の身体拘束適正化検討委員会での話し合いや、ユニット会議・講習・虐待の芽チェックリスト等の勉強会で学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。勉強会では、不適切なケアをなくす為の方法として「食事に時間がかかる利用者の介助」等、現場で起きるケアについて学んでいる。スピーチロックについては、事例を挙げて学んでいる。玄関の施錠はしているが、外出したい利用者には職員が声かけをし、一緒に外出する等の工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・講習で学んだことを伝達またはユニット会議で発表することで意識の向上に努めている。 ・管理者やリーダーが目を配り虐待行為に接触するようなことがあれば直ちに注意し、理解するよう説明している。 ・虐待の芽チェックリストを年3回実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の案内は掲示をし希望参加者を募る。</li> <li>・認知症実践者研修の受講</li> <li>・伝達研修・研修資料の回覧</li> </ul>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・充分時間を取り、納得した上でやっている。</li> <li>・改定時は内容を文章により説明し、同意書をいただいている。</li> </ul>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議、家族会などでさまざまな意見交換があり、結果は施設長を中心とする運営会議で検討され職員に徹底される。</li> </ul>	<p>利用者の要望や訴えについてはしっかりと耳を傾け、職員同士で情報を共有している。「のぞみ苑便り」を送付して利用者の日頃の様子を伝えている。家族とは常日頃から連絡を取り合うようにしており、その中で意見や要望を聞き取れるようにしている。相談や苦情があった際は、必ず上司に報告し、随時、解決に向けて取り組んでいる。又、問題点等についてはミーティング等で議題にして、解決に向け話し合うようにし、それらを運営に反映している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員との面接、ユニット会議への参加により意見、提案を聞きなるべく採用するよう努めている。</li> </ul>	<p>管理者やリーダーは、月1回のミーティング時や毎日の申し送り時、年1回の管理職による面談の他、日常業務の中でも職員の意見や提案を聞く機会を設けている。備品類の購入等の他、勤務体制の変更についての提案等、職員の意見を取り入れて、働きやすい環境作りに取り組んでいる。離職者のない事業所を目指している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内で年1回職員説明会を設ける。</li> <li>・毎年、管理者と職員で面接を行う。</li> </ul>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の案内は掲示をし希望参加者を募る。</li> <li>・認知症実践者研修の受講</li> <li>・伝達研修・研修資料の回覧</li> </ul>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着型サービス事業所連絡会議に参加し研修を受ける。</li> <li>・他事業所より実習の受け入れ</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・契約前には、面談を行い本人、家族の要望を聞いている。又施設見学をしていただき本人納得の上で契約を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・ケアプランに家族の要望を取り入れている。 ・定期的な連絡や家族会の開催などで意見交換を積極的に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・本人、家族と十分に意見交換し、アセスメントを行っている。その結果サービス計画に取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・ともに生活する場とか考え掃除、料理、クラブ等本人の能力を踏まえ同等の作業、会話をする心を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・家族に定期的な面会をお願いしている。 ・担当者は月1回状況報告書を作成し、家族に送付している。 ・面会の時間がとれない家族には担当者が電話連絡し近況報告をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・入所者の希望を外食、外食行事に取り入れている。 ・生活の中で手紙を書いていただいたり、会話による情報収集を行っている。	自宅周辺等、馴染みの場所へのドライブの他、家族の協力を得ての法事・墓参り・外食・一時帰宅・外泊(自宅、子どもの家)、馴染みの理容院・美容院の利用、葬式への出席等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・平等に声かけを行う一方、何事でも複数で作業を行い、職員が間に入りすることで対人関係を成立させている。 ・孤立化を防ぐためにも出来るだけ共同作業で行動が出来る様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・入院等の方には面会等を行い現状把握に努め相談があれば入所者と同等の対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・生活の中での会話において情報収集に努めている。それらはケアプランによってサービス提供される事になる。	職員は常日頃から利用者お一人おひとりの関わりの中で、利用者の表情、状態、会話等を介護記録に記録して、本人の思いや意向を把握出来るように努めている。困難な場合は、管理者やリーダーを中心に職員間で話し合い、本人本位に検討している。月1回の外食は、本人にどこに行きたいか尋ねて実行している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・センター方式アセスメントによって職員にも徹底されている。又随時、本人、家族に聞き取りを行い追加記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・個人カルテに記入し管理されている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・ユニット会議において、1か月事の統括を行い、次回ケアプランに取り入れられている。又定期的に家族の要望を取り入れている。 ・定期的に見直し	利用者の視点に立ち、本人・家族・職員等からの意見や要望を組み込みながら、日頃の様子を「介護記録」に記録し、管理者・計画作成担当者を中心に、カンファレンスを開催し、1年に1回介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、ユニット会議で検討し見直しをしている。利用者の状態や要望に変化が生じた場合は、その都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・個人カルテには毎日の生活歴が簡潔に整理されている、翌日出勤者が閲覧する事で情報を共有している。これを参考にケアプランが作成されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・発生したニーズはユニット会議で検討され、さまざまなサービスを検討し、実際にあったものが採用されている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・地域交流を促進し地域の理解を深めながら、入所者全体の暮らしができるよう援助している。 ・地元小学校、保育所の交流、地域での運動会、老人会行事への参加 ・定期的な図書館の利用		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・本人、家族よりの受診要望は出来る限り対応している。又担当医による定期的な往診もお願いしている。	協力医療機関の他に、本人や家族が希望するかかりつけ医で医療が受けられるように支援している。協力医療機関については、週1回の往診があり、その他の医療機関の受診については、家族の協力を得て事業所が支援している。歯科については、希望すれば往診があり、急用の場合は受診に職員が連れて行っている。かかりつけ医は、24時間対応してくれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・本人、家族からの要望、職員の観察における疾患情報は随時、担当医へ連絡、指示を受けて受診同行するなど支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・担当医による定期往診をお願いしている。 ・入院中も担当医からの情報提供を求め面会と合わせて現状把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・終末期には看とりマニュアルに沿った業務が遂行される。 ・家族に看取り介護の説明を行い、承諾していただいている。	契約時に、「重度化した入居者に関する指針」を基に、事業所に対応できる範囲を説明し、終末期に対する同意書ももらっている。「緊急受診時マニュアル」を事務所に掲示している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向を聞き、主治医と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて、方針を決めて全員で共有し、支援に努めている。看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・急変時のマニュアルを作成し、常時見えやすいところに掲示をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・年2回施設全体での避難訓練を行っている。 ・緊急連絡網の整備を行い緊急通報が自動的に行われる。	年1回、消防署の協力を得て、火災時の夜間想定避難訓練や通報訓練等を、利用者と一緒に実施している他、年1回屋間の想定で、事業所独自で火災時の避難訓練や避難経路の確認を職員のみで実施している。又、地域の防災訓練に利用者と一緒に参加して地域との交流を行っている。自治会長・民生委員の協力を得て、地域の緊急連絡網の作成をして、協力体制を築いている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・人として人生の先輩として十分尊敬し、立場を考えた声かけをするようにしている。	年間研修計画の中で、「基本的な接遇・マナー」「プライバシー保護」「個人情報保護への理解」のテーマについて実施している。利用者への声かけや対応、職員間の言葉遣い等、その都度管理者が指導したり、職員間で注意があったり、研修時に気付きや意見を出し合い向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・一人一人と会話できる機会を持ち、本人の思いを引き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	・ゆっくりとしたペースで生活していただき、その中で本人の希望を取り入れている。		

グループホームみらさか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・入浴日毎に更衣を行い、職員がその人にあった衣服をコーディネートしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・本人の能力に合った作業を提供し、一緒に行っている。	3食とも事業所で食事作りをしている。利用者は、野菜の下ごしらえ・配膳・下膳・食器洗い・盆拭き・トレー拭き等、出来る事を職員と一緒にしている。利用者と職員は食卓を囲んで話しをしたり、職員はさりげない介助をして、利用者が食事が楽しめるように支援している。月に1回外食の日を設け、利用者の要望のメニューで飲食を実施している。おやつ作りでは、たこ焼き・おはぎを作り、プレートでお好み焼きを作り楽しく食されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・水分・食事摂取量を記録し適量を提供できるように努めている。 ・なるべく好みに沿えるものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・毎食後口腔ケアを実施している。 ・できる人には声かけ、他は能力に応じて介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	・おむつ減らしを意識した排泄チェック表に記入し管理している。 ・本人の排泄パターンに合ったトイレ誘導を行い、定時自発を目指している。	排泄チェック表に記入しながら、利用者の排泄パターンを捉え、おひとりお一人のサインを見逃す事なく把握し、羞恥心や不安が軽減出来るよう支援して、出来る限りトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・繊維粉末を便秘の方に使用して頂いている。 ・水分補給の徹底に努める。 ・歩行、昇降運動などを促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	・入浴希望は最優先している。 ・排泄汚染があれば、その都度シャワー浴や清拭で対応している。	入浴は利用者の状態に合わせて、週に2～3回は入浴出来るように支援している。体調に応じて、足浴や清拭、シャワー浴を行っている。入浴したくない利用者には、時間や職員を替えて、声をかける等対応し、必要に応じて家族の協力を得る事もあり、個々に応じた入浴を支援している。入浴中は1対1でのコミュニケーションもとれ、気持ちの良い一時を過ごせるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・必要に応じ午睡の時間を設けている。 ・定期巡回により様子観察、温度管理、排泄管理を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・業務日誌に服薬情報を添付し出勤者は目を通して ・個人カルテ内に医療コーナーを設け、受診、服薬、情報を提供している。		

グループホームみらさか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・本人の生活歴に合せ、さまざまなクラブ活動を展開している。 ・散歩、外出、外食を定期的に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・散歩、畑仕事、草とり等は日中であれば常時可能である。 ・外出希望があれば、家族の協力も得てなるべく実行している。	周辺への散歩、外気浴とドライブに出かけ、庄原の夢桜の花見・三次ワイナリー・バラ園・菖蒲園・紅葉散策等、湧永庭園・世良の道の駅での食事・季節が感じられる外出や、利用者の希望に応じて外食の機会も設けている。又、開村式・運動会・とんどを見に行っている。みらさか美術館・妖怪博物館に鑑賞に、保育所コンサートを聞きに、文化祭・健康福祉祭りへの作品展示、寺の花祭りにお参り・平和公園に折鶴を献花に行かれる等、地域のイベントに積極的に出かけて楽しまれている。事業所敷地内で野菜や花をたくさん育てて、水やりや収穫で、利用者は楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・認知症施設故に金品管理の出来る入所者は少ない。 ・出来る限り本人の希望に沿えるよう家族と相談し行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・手紙や電話のやり取りは日常的に行なわれている。 ・意思表示が難しい方は面会の促進、担当者からの現状報告を定期的に行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・生花、植木、掲示物で季節感を取り入れている。 ・施設内は環境整備され、障害物はほぼ見当たらない。 ・計測器により室温管理を行い除湿機、加湿器、空気清浄機を必要に応じて使用している。	事業所の周りは緑の木々が多く、自然豊かな環境に囲まれ、敷地内の畑には、季節の花や野菜が植えてある。リビングは、明るく、大型テレビやソファ、ピアノが配置してあり、利用者が個々に過ごしている。キッチンからは食事を用意する音や匂いが漂って、生活感を感じる事が出来る。室内の壁面には、利用者が作成した習字や押し花、絵手紙等の作品や季節の壁飾りが飾ってあり、利用者が好きな場所で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・ソファ、畳、長椅子等で居場所づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・家具装飾品などは使い慣れた物があれば持参していただくよう家族に要望している。	利用者が愛用している物、テレビ・ラジカセ、空気清浄器・整理ダンス・収納ボックス・洋服ラック・テーブル・椅子・鏡・時計・雑誌、化粧品ボックス、化粧品、筆記用具等これまで使い慣れた馴染みの家具や好みの物を持ち込み、家族との写真や自分の写真・ぬいぐるみ・カレンダー・塗り絵・猫のパズル・猫の写真等、自分で作った作品や花を飾って、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・居室、トイレなど目印をつけ、迷わずいけるように配慮している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームみらさか

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームみらさか

作成日 令和2年 3月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	会話や声かけが乱暴な職員がいる。	コンプライアンスルールを踏まえた会話・声掛けが出来るようになる。	外部研修と伝達研修 アンケートによる自覚	1年
2	2	社協事業所として、地域からの信頼が乏しい。	地域との交流の場を増やす。	地域行事に積極的に参加する。地域ボランティアの参加。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。